

# ナデシコトワイライト

コンセプト：

キーワード：トワイライト、夕暮れの時や黎明の意味で。

連想：空港、時間差、深夜など。ノスタルジアなど。

ストーリー：

あなたは「普通」で、彼女は「特別」。

しかし、そんな彼女にとっての「特別」は、あなたの「普通」の中にある。

道こそは異なるが行き着く所は同じ、

アンバランスでありながらメイド・イン・ヘブン、

それがあなたとナデシコ。

至極平凡である一般人と落ちこぼれのお嬢様（自称）の普通の恋愛を覗いてみませんか？

ナデシコ：（花言葉は「純粋」、「才能」）

両親は若い頃に起業に成功し、やがて国内で有名な大手企業の経営者となり、世間に名を轟かせた。そんな夫婦の一人娘。

名前から世間知らずの箱入りお姫様だと想像されがちだが、実際は頭の回転が早く、自分の実力に自信を持っている女性。高飛車ではなく、気さくな性格で親しみやすい。フォーマルな場ではきちんと猫をかぶって見事なお嬢様っぷりを発揮する。

学生時代は両親の厳しい教育方針に縛られ、その反動で自立意識が高い。昔、家出をしたが、幸いなことに家庭崩壊だけはギリギリ避けた。それから親との関係は修復しつつあるが、今となっても「良好」とは言い切れない。

お嬢様である反面、庶民っぽいものが好きでオタク気味。おでんやラーメンが好物で、コンビニやスーパーマーケット巡りも趣味の一環。本人曰く「こまめに生活用品の買い出しに行くと精神的な満足感を得られる」らしい。自分のオタク趣味はちょっと恥ずかしいと思っているが、別に隠しているわけではない。

大学卒業の後、外資系企業に就職。仕事関係で世界のあちこちに飛ぶこともある。このことに関して、恋人であるあなたには少し罪悪感を持っている。

今回も仕事で2週間も海外に出張していたため、そのせいでクリスマスも新年もふたりは離れ離れ。幸い、その後年休を取ることができた。

あなたに対してはちょっぴりS気味。多分それも彼女なりの甘えなのだろう。

一人称：私（わたし）、わたくし

あなた（聞き手）：

普通の家庭で育ち、普通の学生時代を送り、それなりに頭と成績が良かったため無事大学に進学。オタク。

ナデシコとは大学の同級生で、同じ創作サークルの一員だった。彼女と同じ趣味を持っていたためオタ友になり、想像以上に意気投合して、気づけば一緒に居る時間がひとりである時間より長くなった。そして友情が段々愛情に変わっていく……。

もちろん、女性としての魅力を持ったナデシコには、そんな自分の気持ちを告白せずにはいられなかった。そして、彼女が令嬢である噂を確かめた。

卒業してからゲーム会社で働いている。締め切り前のクランチタイムは欠かせないが、ブラックほどではない。

大学生の時からナデシコの性格が分かっているからこそ、いつも頑張り過ぎていないか心配している。最近自分も疲れ気味なので、久しぶりの彼女との休暇を待ち望んでいる。

辛い物に挑戦するのが好き。「救いようがない髪フェチ」（ナデシコ曰く）。

キキョウ：

とある館でメイド長を務めているお淑やかで完璧な従者。今回は脇役。

長年抱いてきた館の当主への想いがやっと実を結び、二人でラブラブな毎日を送っている。

（前作「桔梗の言葉で君に語りかける」をご参照ください）

そのバカップルぶりに館の若いメイドたちから「見るだけで暑くなりすぎて熱中症になりそう」と囁かれている。尚、本人たちは自覚していない模様。

ナデシコより年上で、彼女とは幼馴染。二人だけのプチ女子会をしばしば開催している。

トラックリスト：

0、社交場の姫君

Ballroom Princess

1、ミッドナイトラブコール

Midnight Love Call

2、AM 0:30

3、ラーメンと水蒸気と白熱電球

Ramen, Water Vapor and Incandescent Bulb

4、撫でて撫でられて

Touch, Being Touched

5、ナデシコトワイライト

Nadeshiko Twilight

6、そのぬくもりは眠気につき

May I Sleep In Your Arms?

7、お嬢様とメイドさんのお茶会（おまけ）

Teatime for the Flowers

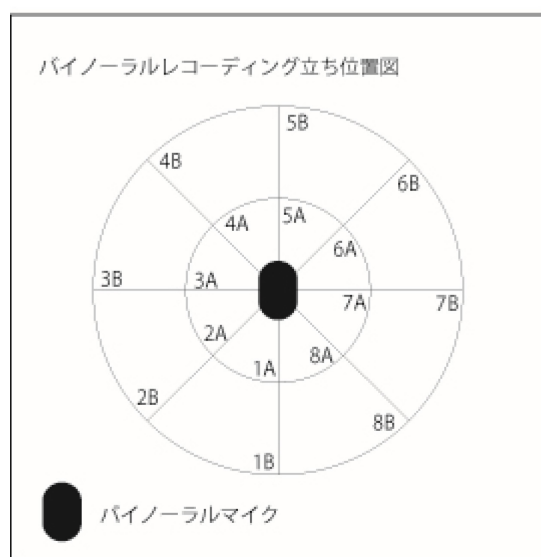
以下台本説明。

台本説明：

1、 ( )、【】と {} の中の内容は指示と補足、それ以外のすべてはセリフとなります。

- 【】は複数のキャラクターが同時に登場する場合のみ**キャラクターの指示**として使われています（今回はトラック 0 と 7）。
- {} の中には**位置、距離、声の大きさ**の指示となります。次の指示が出るまで、前の指示に従ってください。
- ( ) の中にはシーンに関しての補足となります、基本的に以下四種類：
  - セリフの前のト書き。キャラクターの口調、感情など。
  - SE、BGSE と Effect の説明。キス、呼吸音と吐息のアドリブは台本の最後にまとめたので、収録の時はそちらに参考していただければと。
  - 主人公セリフ。会話を理解しやすくなるための補足セリフ。
  - 場面転換と場所の説明。

2、位置の指示は六種類となります：



5A/5B を正面にして：

- 左側：3A/3B
- やや左：4A/4B
- 正面：5A/5B
- やや右：6A/6B
- 右側：7A/7B
- 後ろ：1A/1B

具体的な距離は距離指示にご参照ください。

3、距離の指示は四段階となります：

- 直近距離：0—5 c m。耳元（横から）、おでこコツン（正面から）の距離。
- やや近い：5—15 c m。膝枕や耳打ちなどの距離。
- 正常距離：15—25 c m。普通の会話距離。
- やや遠い：25—40 c m。正常より遠く感じる。

センチ数はあくまでも目安ですので、ご参考までにお目通しください。

4、声の大きさの指示は四段階となります：

- **囁き**：囁き声。
- **小さい声**：耳打ちや独り言をする時の音量となります。
- **正常音量**：普通の会話音量。
- **やや大きい声**：呼びかけする時、気持ちが昂る時の音量となります。

以下は台本文。

## 0、社交場の姫君

(場所：更衣室)

(掛け合いのシーンについて、基本的にナデシコは左でキキョウは右)

【キキョウ】

(SE：ドアノック、ドア開け、ドア閉め)

(SE：足音)

{やや右、やや遠いから正常距離まで移動、正常音量}

ナデシコ様、お呼びでしょうか？

【ナデシコ】

{やや左、正常距離、正常音量}

ああキキョウさん、良いタイミングで助かるわ。

このドレスの後ろのジッパー、締めてくれないかしら？

自分じゃ届かないから……

【キキョウ】

承知いたしました。

では、少しの間だけ動かないようお願いします。

(SE：ジッパーの音)

はい、締めました。

どうでしょうかナデシコ様、胸周りは苦しくありませんか？

着替えのドレスならいくらでもありますので、もしサイズが合いませんでしたら、遠慮なくお申し付けください。

【ナデシコ】

そんなことはありませんよ、心配してくれてありがとうキキョウさん。それより……

{左側、やや近い、小さい声で}

(耳打ち) ねえねえキキョウさんキキョウさん、ここには私達しかいないんだから、そんな店員さんみたいな堅苦しい口調じゃなくても大丈夫だよ。

【キキョウ】

{右側、やや近い、小さい声で}

（耳打ち）ですが、ナデシコさんも今日のバンケットにご招待されたお客様ですから……いくら幼馴染とはいえ、使用人の私はお客様にお仕える立場で砕けた口調を使うわけにはいきません。

それに、私はナデシコさんのように器用に切り替えができませんから……

【ナデシコ】

（SE：化粧品など蓋開けの音）

{やや左、正常距離、正常音量}

（からかう）はあー小さい頃から、キキョウさんはいつも真面目だね……あいつの前以外では。

【キキョウ】

{やや右、正常距離、正常音量}

（恥ずかしがる）な、ナデシコさ……！

コホン、ナデシコ様、私のことより、彼氏さんの方は大丈夫でしょうか？初めてのバンケットだと仰っていましたよね？

【ナデシコ】

ごめんごめん、ちょっと意地悪しちゃった。

彼は確かに初めてなんだけど、まあ大丈夫でしょう。

これくらいの適応力がないと、お嬢様の恋人なんか務まらないぞーなんてね～

ほら、私達、大学の時からずっと付き合ってるじゃない？

恋人になってもう長いし、私のお家のこと彼も知ってるし。

一度こういう場を体験させてもいいかな一って。

【キキョウ】

でも、ナデシコさんは昔からこういう社交場はあまり好きではありませんでしたよね？

今回はお婆様のお誕生日ですから来てくださいましたけど……どうして今更、彼をここに連れてこられたのですか？

（SE：ドアノック）

（主人公：ナデシコ、こっちもう着替えたよ。そっちは？）

【ナデシコ】

おっ？

ほほおーこれはこれは、う、わ、さ、を、す、れ、ば～

{やや左、正常距離、やや大きい声}

(主人公に聞こえるように呼びかけ) もう着替え終わったよー入って入ってー

(SE：ドア開け、ドア閉め、足音)

{やや左、正常距離、正常音量}

ワオー、いいじゃないいいじゃないーシャキッとしてる。

あなたってスーツ似合うね！なんか意外かも。

(バラエティ番組のパーソナリティっぽく) それじゃ、ここでフォーマルスーツの専門家であるキキョウさんからのコメントをお願いしたいと思います！さぁーどうぞ！

【キキョウ】

えっ！？専門家なんて恐縮です、あれはご主人様のスーツ選びを手伝っただけで……

【ナデシコ】

それだけで十分だと思うよー

パーフェクトメイドの名は伊達じゃないんだから！

それではコメントお願いいたします！

【キキョウ】

そこまで褒められると流石に恥ずかしいですが……

えっとー、とてもお似合いだと思いますよ。

(優しく) はい、ちゃんと自信を持ってください。すでにこんなに綺麗な彼女さんがいるんですから。

【ナデシコ】

おおーやっぱり名門のメイド長は手抜きありませんねー

カップルとしてべた褒めされたんだよ？

これから会社に行く時もスーツ着ていったらどうだ？

はいはい、着心地が悪いとかそんなこと言わないの。



これが正装だからね、気を引き締めないと。  
バンケットの間だけだから、我慢なさい〜

(SE：蓋閉じ)

{やや右、正常距離、小さい声で}

(独り言) っと、これでメイクもばっちりだね。よしっ。

{やや右、正常距離、正常音量}

どう、彼女のドレス姿？カーテシーだってできますよ？ほらー

(SE：布の擦る音)

(朗々と) 遠路遥々ようこそお越しくございました、お客様。わたくしはこの宴の主催者、ナデシコと申します。お客様に極上の一時をお過ごしいただけるよう、心からおもてなしさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

へへーそれっぽいでしょう？

お嬢様より女将っぽい？まあ悪い気はしないわ。

(説教っぽく) 旅館の経営を見くびっちゃいけないよ？はじめに……

【キキョウ】

(慌てて) あのーナデシコさん、お談義の邪魔をして申し訳ありませんが、そろそろ時間かと。

【ナデシコ】

ええーもう？

(慌てて) っとうっわ本当だ、もうすぐ始まる時間じゃない……

【キキョウ】

ごあいさつ、よろしくお願いしますね。

【ナデシコ】

うん、任せて！

ではでは、久しぶりだけど、お嬢様モードで行きましようか！

ほら、あなたも、観客として、しっかりと私の姿を脳内に焼き付けなさい！

(場面転換：バンケットホールの席で)

(BGSE：賑やかな話し声)

{やや左、正常距離、正常音量}

あっ、これはこれは、お久しぶりです、ご無沙汰しております。

お元気そうでなによりです。

はい、はい。

ふふ、お褒め頂き、誠にありがとうございます。

申し訳ありません、好意を無下にするのは無礼だと百も承知ですが、婚約の件は、どうか考え直していただだけませんか？

わたくし大学を卒業して日がまだ浅く、今は仕事の方に専念したいと思っていますのです。ご期待に添えず、申し訳ありません。

なにより、今のわたくしは、まだご子息に相応しい存在ではございませんから……。

ですので、どうかお許しを……

今夜、バンケットのあとですか？申し訳ありません、もう既に先約がありまして、今回は遠慮させていただきます。

いいえ、そのようなこと、滅相もございません。ご厚意は嬉しい限りですが、ただ、先に申しましたとおり先約がありまして、何卒ご容赦を。

【キキョウ】

{正面、やや近い、正常音量}

ナデシコ様、お話し中に申し訳ありません。

お婆様からナデシコ様にお話があると仰せつかりましたので、宜しければ……

【ナデシコ】

わかりました、ありがとうございますキキョウさん。それでは、申し訳ありませんが、お先に失礼いたします。

【キキョウ】

どうぞ、こちらへ。

(場面転換：更衣室で)

【ナデシコ】

{やや左、正常距離、正常音量}

はあーやっと息抜きできたーありがとうキキョウさん……

もうなんなのよあのクソジジイ、顔を合わせるたび息子とお見合いだの結婚だのって、興味ないって何度言っても諦めずに粘ってきて、本当にムカつくわね。

「このあとうちに来てくれないか」って一体何を考えてるの!?

これでも社長か!? 呆れたわ……

って、ごめんキキョウさん、思わず悪口言っちゃった。

いくらムカついてるとはいえ、お婆様が招いたお客様相手に……

【キキョウ】

{やや右、正常距離、正常音量}

ふふ、安心してください、大丈夫ですよ。

もしナデシコさんが誰かにしつこくされたら、次回のバンケットにはもうその方を招かないってお婆様が仰っていました。

それにここには他の人もいませんし、悪口くらいお安い御用ですよ?

【ナデシコ】

(SE：抱きつく音)

うっ、ううわぁあんー

お婆様とキキョウさんの優しさが染みるうー抱っこおー

【キキョウ】

(恥ずかしそうに) あっあはは、ナデシコさん、えっと……私より彼氏さんに抱っこされる方がいいんじゃないですか?

最初に彼が気づいて、私に教えてくださったんですよ。

【ナデシコ】

へえー、そうなんだー

（わざと驚く）って、あなた何時からここにいたんだよ！？

あはは一真に受けるなよ、冗談だ冗談、最初から気づいてるって。

（SE：足音、キキョウ退場）

{正面、やや近い、小さい声で}

コホン、改めて……

（優しく）ありがとね、いつも私のことを見ていてくれて。

（からかう）ええ？「だって」？「だって」なに？

なんでもない？そうかなあー、本当？

なんでもないんじゃないくて、恥ずかしくて言えないんじゃないの？

私、知りたいの、言ってみて？

ほら、ぐずぐずしないで言いなさいよ！男だろ？

人がいるから言えない？誰が？キキョウさんならもうここにはいないよ？

そう、もうここには私達ふたりきり。だから、言ってごらんなさい。

うんうん、ほおーそうかそうかー

つまりこういうことかあ、私がほかの男達にチャホヤされてえ、ヤキモチ焼いてたんだー

かわいいじゃないか、この、この～

{正面、やや近いから直近距離へ、小さい声で}

（ゆっくりと）そんなあなたに、んー

（SE：キスアドリブ、20秒）

{正面、直近距離、小さい声で}

はあ……ふふ、私とこういうことできるのは、あなただけだよ？  
どう？気持ちは晴れた？

むむ、どうやら足りないみたい。  
(色っぽく) じゃー、もう一回する？

ええー今更ここで恥ずかしがるの？  
本当にかわいいなあーふふ～

(真剣に) ねえ、聞いて。  
今日あなたをここに連れてきたのには、2つの意味があるの。  
その一、私は、どんなドレスを着ても、どれだけの人に注目されても、どんな口調を使っても、「あなたの」彼女ということには変わらない。

だから、キスくらいは一

(SE：キスアドリブ、10秒)

当たり前のことだよ。へへー

その二は……あとで、教えてあげる。

{正面、正常距離、正常音量}  
それより、どうだった？さっきのあいさつ。  
完璧？へへーならいいんだ。こういう場って本当に久々すぎて、ちょっと不安だったよ。

そうは見えない？そりゃ猫被ってるからだよ。  
こう見えてもああいう役を演じるのは得意なんだー

(少し暗く) なにせ、学生時代からずっと演じ続けてきたんだもん、嫌でも上手になるよ。

（正常口調に戻る）さーて、私の出番は終わったし、会場には戻りたくないし、ここに隠れて終わるのを待つかー

ん？帰る？いや、できるならいいけど、諦めた方がいいと思うよ？

ふふ、冗談よ、ホラー映画じゃないし。

ただ、キキョウさんが全力で止めに来るから、彼女に勝つ自信があるなら試してもいいよ？

（場面転換：客室）

【キキョウ】

{やや右、正常距離、正常音量}

申し訳ありませんナデシコさん、この部屋普段は使っていないので……掃除はすでに終えたんですが、ベッドとシーツがまだ準備できておりません。

少々お待ちくださいね、すぐに……

【ナデシコ】

{やや左、正常距離、正常音量}

（慌てて）大丈夫大丈夫、本当に大丈夫だよキキョウさん、心配しなくていいから！  
今日一番疲れたのはあなたなんだから、ゆっくり休んでて？

{やや左、やや近い、小さい声で}

（耳打ち）それに、酒にやられた「ご主人様」の色んなお世話もあるでしょ、ねえ？

【キキョウ】

{やや右、やや近い、小さい声で}

（恥ずかしく）ちょ、ちょっとナデシコさん……聞かれていますよっ……！

{正面、正常距離、正常音量}

コホン、そ、それではお言葉に甘えて……

明日の朝、いつもの時間に起こしにまいりますので、今晚はゆっくりとお休みくださいませ。

【ナデシコ】

{やや左、正常距離、正常音量}

わかった～それじゃあまた明日ね、キキョウさん。

(SE：ドア閉め)

{正面、正常距離、正常音量}

だから諦めた方がいいって言ったでしょ？ここに来た時から、泊まりになるのはもう決定事項だったんだよ。

それに、せっかくのプレジデンシャルスイートだから、リラックスして楽しもうよ。

(SE：足音、窓開け)

はあー、今日一日やっと終わった……どう？初めてのバンケットの感想は？

はは、やっぱり疲れるよね。こういう社交場、海外出張なんかより精神的にくるから……

(SE：足音)

{正面、やや近い、正常音量}

ねえ、さっき言いかけた、あなたをここに連れてきたもう一つの意味は……

そう、一度体験させたいと思ったの。みんな仲良さそうに見えるけど、どこかぎこちない、あの場の微妙に「お堅い」雰囲気。

多分もう気づいてると思うけど、あの場にいた客は、どれだけ仲が良さそうに見えても、それは全部偽物なのよ。

小さい子供でさえ、その笑顔の裏には「目的」しかない。

みんなそれぞれの打算があって、みんなそれぞれ自分の為に動いて、お互いの言葉の裏を探り合う……そんなの疲れて当然だよ。

(暗く) 私達はその場にいるだけで、ストレスが溜まっていく。

実際ああいう場で生き抜いた人は、どれくらいの苦勞を抱えているのか……

全く想像したくないわ。

もちろん、それは彼らの生き方で、私にはそれを批判する権利も資格もない。

ただ、そこまで自分の感情を偽って、虚しいと思わない？

社会はこのようなものだって、私だって知ってる。

でも、ああいう場所だけは、どうしても耐えられそうにない。

私の親は、最初から私をあんな人たちみたいに育てるつもりだったんだ。

昔から、「これがあなたのため」とか色々小言が多くてね。

だから、あなたの知ってる通り、一度自分の家から逃げ出したのよ。

縁を切ったわけじゃないけど、少なくとも、そういう生活からは逃れた。

（正常口調に戻る）あっ、お家と言えば、ほら、この窓から、近くの別荘が見えるでしょう？

そうそう、一階部分にぼつぼつ灯がついてる建物。

アレが、私のお家なんだ。

そう、お隣なの。

今、父も母も海外にいるから、使用人のみんなが管理してるだけ。

ほら、あのちょっと尖った角、真っ暗で見づらいかもしれないけど。

そうそう、あれ。別荘の三階。

あそこが、学生時代の私の部屋。

（からかう）はは一ん、気になる？残念だけど今日は無理だね。部屋に招くのはまた今度～

（少し暗く）家に泊まらないのは、帰りたくないだけ。いい思い出はほぼないからさ。

（正常口調に戻る）こっちにいる方がずっと楽しいし。今こんなふうにあなたと一緒にいられるのも、この館があったおかげかも、ふふ。

まあ無駄な昔話は置いて。灯もまともについてないゴーストハウスを見るより、早く寝ましょう？

（場面転換：ベッドの上）



{右側、やや近い、正常音量}  
電気消しますよーよいっしょっ！

(SE：スイッチ)  
{右側、やや近い、小さい声で}  
はあーここに泊まるの久々すぎてちょっとワクワクしてきたよねー

ん？なーに？

今更「なんで俺」って、どうしたの突然？

「平凡すぎる」？

うーん、確かにそうね、如何にも、「普通」の男って感じ？

でも、あなたは、その「普通さ」に徹してた。

いや、もちろん褒め言葉だよ。

ねえ、覚えてる？サークルに入ったあと、私の周りで、「実家はお金持ち」とか、「家出お嬢様」とか、「家のツテを使って大学に入った」とか、そんな噂がいっぱい流れてたでしょう？

実際、最後のやつ以外は全部あってるけどねー

(少し暗く) それからは、偏見と嫌がらせ……ほかの学生たちからの視線が変わったわ。嘲笑ってるような、怖がってるような、そんな視線になった。

そしてとうとう、利益目当ての人も現れ始めた。私は、そんなふうに一生懸命相手の腹を探るような生活から逃れたはずなのにね。

(正常口調に戻る) けれど、あなたはいつもいつも、相変わらずの態度で、ちゃんと一人の「人間」として私と「普通に」接してくれた。最初から、今まで。

(優しく) 「友達だから」、あの時、あなたは私にそう告げたよね。なんの変哲もない、普通すぎる理由で。

あなたのその「普通」が、私にとっての「特別」なんだ。

だから、あなたが告白してきたとき、私も「普通」に「いいよ」って答えたよ。

（恥ずかしそうに）あなたが私にとっての「特別」なら、私もあなたの「特別」な人になりたいなー……なんて～  
……なんか恥ずかしいね、ふふ。

この答えは、満足でしたか？彼氏くん？

それならよし。

さあさあ、辛気臭いことはここまでにして。

ベッドも広いし、今日のあなたはいっぱい頑張ったから……私を守ってくれたから……

{右側、直近距離、小さい声で}

（優しく）今夜は私が、いっぱいぎゅううーしてあげるからね。

（SE：布団の音）

ほら、ぎゅううー

{右側、直近距離、囁く}

ん、おやすみ。あなたが眠るまで、頭を撫でてあげるね。

うん、今日はそういう気分なの。安心して寝なさいなー

（SE：頭を撫でる）

（SE：呼吸音ループ）

（優しく）あなたなら、きつとこの先の事を託しても大丈夫。

あの時から、私はずっとそう思ってるのよ。

だから、ずっとこのままで、変わらないあなたで居てね。

（甘い声で）お願いよ、私の彼氏さん。

# 1、ミッドナイトラブコール

(Effect：電話つぼく)

(SE：着信音)

{正面、正常距離、正常音量}

もしもし、もしもしー私の声、聞こえる？

大丈夫？良かったー……最近ここの回線繋がりにくくて、ちゃんと通話できるかどうかわからなかったのよ。

まあそれはさておき、今週末帰る予定だからお土産持っていきたいんだけど、なにか欲しいものある？

えー？なににも買わなくていいの？本当？

んー……もしかして、遠慮してる？

せっかく地球のこっち側にいるんだから、向こうの彼氏に何か買ってあげたいの。

(ちょっと拗ねっぽく) それくらいの女心は察せよ、もう。

(申し訳なさそうに) それに、クリスマスと新年のお詫びも兼ねて、ね。

そう言ってくれると思ってたよ、「俺は大丈夫」って。でも、こっちは気が済まないから……

(申し訳なさそうに) ほら、十二月に「来年こそ二人でもっと一緒に居よう」って言い合った途端、年越しがこんな状況……はぁー、今年も無理そうじゃない？

理解してくれるのはもちろん嬉しいけどさー、仕事に埋め尽くされたような人にはなりたくないの。

でも、中途半端に投げ出すと悔しいというか歯がゆいというか……

(自嘲気味) あははーこういう時は面倒くさいよね、私って。

「そこに妥協しないのも私らしい」？

(優しく) ……ふふ、いつもいつも私を褒めてばかり。

もうずっと前から好感度マックスだから、そんなに積極的に口説かなくてもいいのよ？

とーりーあーえーずっ、彼女の繊細な気持ちを受け取って？

いつも私のことを見ている彼氏くん？

はい、素直でよろしい。それで、なにが欲しいの？

ええー「私」？

（からかう）あららー、あらあらまあまあ彼氏くん、どうやら我慢してたみたいですね？  
エロビデオとエルフのエリーゼちゃんの薄い本くらい浮気にならないから安心して使ってい  
いんだよ？

いや待って、うーん、ダメ、やっぱりエリーゼちゃんはダメ。

なんでだよって、あんた彼女のグッズ買い過ぎ。

いや、容姿端麗才色兼備端的に言って清楚の塊のド直球王女キャラが今時少ないのはわかる  
けどさあ、それでもだよ、フィギュア買いすぎなんだよ。

彼女の薄い本、もう筆笥一棹(さお)分くらいあるでしょう？

{正面、正常距離、やや大きい声で}

はあ！？あ、アキくんとは関係ないでしょう！

だってあれはアキくんだよ！？

健気でいい子でショタ顔のミンストレルのアキくんの、限定カードのピックアップだよ！？

あのカードさえ引けば私、アキくん図鑑制覇なんだよ！？

こんなチャンス逃すもんか！

{正面、正常距離、小さい声で}

（しゅんとする）きゅ、給料の大半を溶かしたのは、流石に反省してます、はい……

{正面、正常距離、正常音量}

とりあえず、エリーゼちゃんはダメ、もうちょっと我慢して？

（色っぽく）私が帰ったら、ちゃんと絞って……じゃなくて、気持ちよくしてあげるから～  
ね？

冗談はさておき、本気で、なにが欲しい？

（以下はギャグシーンなので全力のツッコミよろしく願いいたします）

「即席麺」ね、はいわか……ってまたラーメンか！これでもう三度目だよ！？

時々思うけど、あなたもしかして私よりそっちの方がすきなんじゃないの？

まあ、そりゃもちろん私もラーメン大好きだけどさあ……

って、そんな問題じゃないよもう。せっかくだからきちんとプレゼントしたいの！  
貧乏な大学生時代と違って、贅沢なことくらい一つや二つできるわよ。  
っていうか、私これでも「一応」お嬢様なのよ？忘れてないか、この設定？  
ほら、二ヶ月前のバンケットで……

(SE：着信音)

……あれ？突然メールが……なにになに……

「おでん屋のおっさんでも引くくらいの日本酒がぶ飲み選手権ワールドランキングナンバーワン世界一のお嬢様、こんばんは」……  
あんたうるさいわね！帰る前にラーメン全部握り潰すわよ！っていうかワールドランキングナンバーワンと世界一被ってるじゃん！

(息切れ) はあ、はあ、ツッコミ疲れたよもう……

あーあーはいはいわかったわかった、ラーメンでいいよね？  
まあ、こっちには見たことないブランドがたくさんあって私も楽しみにしてるし、いいかあー

(短い沈黙)

って、あれ？なんかタイプ音が聞こえるけど、こんな朝からメールか？  
あっ、新作のことか。そう言えば、もうすぐ出るんだっけ？  
ほおーもうマスターアップしたんだ？それじゃ休みを取っても大丈夫ってことだよな？ふふ。

(伸び) ふーうっ、んんんー、はあああー今回も頑張ったなー私。  
ん？こっちの仕事？大丈夫、平気よ。これくらいはもう慣れたし。  
まあ初めて海外に行った時は本気で「こんなの無理」って思ったけどなー人間の適応力って不思議だよな。

(嬉しそうに) えっ、本当？帰ったらマッサージしてくれるの？  
ふふ、じゃ期待してるわ。  
あなたの手つきかなり好きだから。時々いやらしくなるのが玉に瑕だけど、まあ許すわー

そうそう、前回言った通り、フライトの到着時間かなり遅いから、私を待たないで晩御飯食べて？

こっちは機内食があるから心配しなくていいよ。順調なら、終電の1時間前には到着できると思う。

迎えに来てね、でないと怒るから。

ふふ、冗談だよ〜いつも出口で私を待っていてくれるじゃない。

でも、迎えにくる前に、ちゃんと晩御飯食べて。ね？

(長い沈黙)

すうーはあー

ん？どうした？

ため息？ううん、大したことじゃないよ。

ただ、「帰る」って決めたら、一気に力が抜けた感じかな。

やっと、「疲れた」感覚が戻ってきたよ。

ついでに……「寂しさ」もより一層……

さっきはあなたが言ったけど、私だって、あなたと会いたいわ。「寂しくない」なんて自分に言い聞かせても、嘘だってバレバレだし。

(悲しげに) もう電話だけじゃ、どうにもならないよ……

あなたもそう？お互い、もう少しの辛抱よ……このあとは年休だから、部屋でベタベタしても誰からも責められないから……

(明るく) うん！ラーメンいっぱい買って行ってあげるから、楽しみにしてて。なんならあとでエリーゼちゃんの薄い本も一緒に読もう？ふふ。

(短い沈黙)

ふうーやっぱりこうやってあなたと喋ると落ち着くわ。

それじゃ、なごり惜しいけど私はそろそろ寝なきゃ。あなたも今日一日頑張ってください。

今週末、空港で会いましょうね、ちゅっ。

へへ、いつも通りの電話越しのチュー。帰ったら本当のキスをしてあげるから、今はこれで我慢して？

(あくび) ふあー……んん。私、もう眠いから、通話切るね？  
ん？一緒に？いいよー、じゃ、せーの。

(嬉しそうに) ……どうして切らないのよもう！  
……私も切っていないけど、ふふ。  
次は本当に切るよ。週末、あなたからの「おかえり」を待ってるから。  
それじゃ、バイバイ、彼氏くん～

## 2、AM 0:30

(場所：空港到着フロア)

(BGSE：空港環境音)

{後ろ、正常距離、やや大きめな声で}

(芝居じみで) どの小娘を見ておるのじゃ！妾はここにおるじゃろうが愚か者！

{正面、正常距離、正常音量}

驚いた？へへ、いいでしょ私のモノマネ？

誰って、もちろん美人メイドとお喋りして鼻の下を伸ばすナイトにヤキモチをやいてる女王陛下だよ。

(からかう) 勘違い？さっき通りすがりのCAさんをガン見してたくせに。

私を探してたの？ふーん？本当かな？

(正常口調に戻る) あっちの出口、人があまりにも多いから少しだけ遠回りしてきたわ。同じように遅延したフライトが多すぎたのかな……

(申し訳なさそうに) 改めて、ごめんね。こんな時間まで待たせておいて……

だから、お礼とお詫びと挨拶を兼ねて、んー

(頬へのキス) ちゅっ。

約束のキスだよ～それであなたからはー？

はい、ただいま戻りました！

ラーメンもちゃんと買えたわ！面白いものいっぱいあるから期待してて～

{やや左、やや近い、正常音量}

さてとー、今は……

やっぱ十二時過ぎかぁ……終電もバスもとっくに行っちゃったね……どうする？

ここからタクシーだとキツイよね。

贅沢ができるとはいえ、深夜のタクシーは流石にちょっとねー

じゃ、残るは……ホテルかぁー

あっ、そう言えば、出発するときに、空港付近に新しいホテルがまもなく開業とか……



ちょっと待って、今スマホで探すから。

んーん、カプセルじゃないよ、ほら。

料金は……あっ、今オープン割引があるって。

（嬉しそうに）しかも空き部屋まだある！ラッキー～

少なくともタクシーよりはずっとマシだね。

どう思う？彼氏と一緒に空港で始発を待つのも悪くないけどさー

（主人公：良いわけないでしょうー）

ふふ、それなら決まりね、部屋の予定も決まったし。

えっと一目的地は、ターミナルから徒歩十分。

（テンション高い）それじゃ、ホテルへしゅっぱーつ！

（場面転換：空港外の道）

（BGSE：冬の夜の環境音）

（SE：歩く音）

{左側、やや近い、正常音量}

夜のお散歩みたいで丁度いいよねー

荷物があるのは仕方ないけど、お疲れ様、か、れ、し、くん～

ん？私？大丈夫よ。

ぶっちゃけジェットラグのせいで頭はまだ冴えてるの。

ほら、飛行機って大体窮屈で、眠るしかないじゃん？

だからちょっと体を伸ばしたいって思ってたさー

（伸び）うーん……

はぁーこのちょっと湿っぽい空気を吸うと、帰ってきた実感が湧くわね。

今回の出張先は内陸でかなり乾燥してたから、事前に保湿クリーム準備しといて良かったよ……

そうよ、雪が降ってるときはまだマシだけど、晴れた日とか朝起きた時なんかはいつも唇がかさかさしてるの。

そうねー、住みやすいところだけど、やっぱり家はこっちにあるからねー

(短い沈黙)

ん？面白いこと？いや遊びに行ったわけじゃないんだけどさー

あっそういえば、あっちの友達にネットで有名な唐揚げ屋に連れてってもらったんだー

そうそう、唐揚げ屋。すごいよあの店、毎日、開く前にもう列ができてるとか。  
私はハンバーガー一つだけでお腹いっぱいになってちょっと残念だった。他の物ももっと食べたかったよー

味？そりゃめっちゃくっちゃうまかったよ。

(幸せそうに) 揚げたての鶏肉、一口噛むと汁がじゅわーってなって、弾力のある肉が舌の  
間でゴロンって。

まさに至福の時間だったわー

でもねーあの店、一番人気なのは激辛唐揚げなんだよ。

あなたと同じくその友達も辛党で、私はついでにちょっとだけ試してみたんだけど、やっぱり無理。

(主人公：そんなに辛いの？)

うん、すごく。

「マジ引くわ」ってくらい辛い。

具体的に？んーそうね……

あっ、この前流行ってたあの激辛焼きそば、ほらあなたがよく食べてたアレ。

そうそうそう、アレより一つ上の段階……な気がする。

それどころじゃないよ？友達によると、それでも店で一番辛いものじゃないみたい。

最上級のやつはプラスチック軍手を着用して食べるんだって。

正直に言って、もう食べ物なのかどうか疑うレベル。

(呆れる) ……いや、そんな闘志に満ちた眼差しを私に向けられてもなぁー  
ええ一本気か？機会があったら連れてってでもいいけど、胃がどうなっても知らないわよ？  
私は遠慮しとくわー

{正面、正常距離、正常音量}  
おっ、もうついたね。  
外観は良さげだし、なんだかジャックポッドな予感がしない？

テンション高いのは当然だよー  
卒業旅行以来、二人で一緒にホテルに入ったことはまだないでしょ？  
だからこれが旅行みたいだと思うと、ワクワクしてくるじゃん？  
ほら、こういう小さいホテル、二人旅には最適じゃない。  
なにより……

{左側、直近距離、囁き}  
今夜は、年休の始まり。つまり、あなたと一緒にベタベタする時間の始まり。  
(わざと誘うように) しかも、家ではない、ホテルで。さーて、この状況は一

{正面、正常距離、正常音量}  
あはは、もちろんわざと際どい言い方にしたのよ～

(テンション高い) さあ、いこいこー

### 3、ラーメンと水蒸気と白熱電球

(場所：ホテルの客室)

(SE： ドア開け、ドア閉め)

{正面、正常距離、正常音量}

おっ、いい洋室じゃんーって、なんかサイトに載ってる写真より狭くない？

(ダジャレ、「レベル」を少し強調する) まあそうよね、宣伝用の写真だし、本気で本物と比べるならラーメンのレーベルなんてもう詐欺「レベル」じゃん。

(短い沈黙)

(気まずそうに) な、なんか言いなさいよ。

「キャラが違う」って、た、たまにダジャレくらいいいじゃん。

(SE： 足音、窓を開ける)

{やや右、やや遠い距離、正常音量}

換気しようっとー

すうー、はぁー、今夜は月が眩しいねー

{やや右、正常距離、正常音量}

ん？私の仕事先のホテル？

いやいや、流石にそれは比べものにはならないと思うわー

小さいキッチンまで備わってるクイーンサイズルームだよ、あれ。

うちの会社、いつも出張前に予約してくれるからありがたいわ。

おっ、この電気スタンドかわいい！ネコミミついてる！

そう言えば、今時白熱電球を使った電気スタンドって珍しくない？

懐かしいね、この丸い電球。

(SE： スイッチ音)

{やや右、やや近い、小さい声で}

(懐かしそうに) 私、この光が好き。暖かい感じがする。

(SE：ベッドに倒す)

{やや右、やや遠い、正常音量}

(幸せそうに) おおーベッドもふかふかだー

(だらしなさそうに) はぁー久しぶりのベッドおー、えへへー

(ちょっと拗ねる) これくらいだらしなくてもいいじゃないー

{やや右、正常距離、正常音量}

仕事先のホテルは空港から結構離れてたから、今日の朝はめっちゃ早起きしたのよお？  
えらいでしょう、私い？

ほらほら、あなたもベッドにダイブしてみたら？

今日一日かなり疲れたでしょ？お昼は仕事で、夜はこんなに遅くまで私を待ってたんだから。

(SE：ベッドに倒す)

{正面、直近距離、小さい声で}

(甘い声で) へへーっーかまーえたっ！

(深呼吸) すうーはぁー、2週間ぶりだから、やっぱり抱きつく気持ちいいわー  
ごめんね、クリスマスも新年も、あなたを一人にさせて、彼女失格だね。

(少し暗く) 本来なら、お金で買えるギフトじゃなくて、手料理とかを食べてもらって、  
「昔よりマシかなー」って言いながらにやけた顔で全部食べる……  
それだけでいいのに、それすらも出来なくてさ……

(正常口調に戻る) おっといけない、辛気臭いこと言って私らしくないね。

(とろけそうに) 今から2週間、ずっと私達の時間だし、愚痴言うよりイチャイチャしよう？

(SE：腹鳴り)

{正面、直近距離、正常音量}

っふ、ぷはははーいいタイミングで盛大に鳴らした。

私を待たないで晩ごはん食べてって言ったのに、どうして食べないのよ、バカもの。

(ベッドから起きる)

{正面、正常距離、正常音量}

まあ私も丁度小腹が空いたところだし、どうしようかー

ここじゃ流石に料理はできないわよね……えっと、一番近くのコンビニは……

あっ、そうだ！ラーメンがあるじゃん！せっかくだから、試食会しましょう？

満場一致ね！じゃ、早速ー

(SE：箱を取り出す)

よいっしょとっ！

(SE：箱ドスン)

じゃじゃん！拍手！

(SE：拍手)

そしてそしてーお待たせいたしました、開封の儀、はじまりはじまりー

(SE：箱開封、探る音)

ふふ、どう？品揃えいいでしょう～

まああっちの人は元々麺とか食べないし、結局ラーメンブランドはアジアメーカーに限られるんだけどね。

今回の出張はチャイナタウンに近いから、なんだかんだで中華系のものが多い気がする。

もちろん、韓国産、シンガポール産にタイ産のやつもあるけど、どれにする？

(呆れる) 一番辛いのか……うん、そうくると思ったよ……

(SE：探る音)

(呆れる) はい、これ、あなたの為に買った一品。

中国語は読めないけど、「辛い」の漢字くらいは読めるよ。  
それと、なんか王様っぽい人ととうがらしの粉がパッケージで鎮座してるから、「辛味の皇帝」みたいな感じかな？

そうそう、味が異なる色違いの商品もあったから、とりあえず種類ずつ買ってみたんだー

（芝居っぽく）さあ一選びなさい、勇者よ！

黄色のやつ？オッキー

（SE：探る音）  
それじゃ私は一えっと……汁入りだとちょっと重いから、んー  
あったあった、これいいじゃない。シンガポール産、名物の黒胡椒味焼きそば！

いや、黒胡椒なら大丈夫……多分。  
まあ本当に辛かったら、そのときはあなたにあげるねー

（SE：ケトルを取る）

じゃあ、早速ケトルをー  
ってこれまだ新品じゃん。営業始めたばかりのホテルだから、新しいものが多いねー

お湯沸かすから、ちょっと待ってて。

（SE：水音、足音）

（SE：スイッチ音）  
{やや左、正常距離、正常音量}  
ケトルをポチっとー！  
おっ、調味料はもう準備できたのか〜

それならあとは待つだけね。

(SE：電気ケトルの音)

(長い沈黙)

{やや左、やや近い、小さい声で}

ジー

{正面、やや近い、正常音量}

ん？なんでもないよ。待ってる間暇だから、あなたを見つめてるだけー

……痩せたね、あなたは。

(SE：頬をさす)

本当。ほら、ここ。頬のあたり、前より細くなった。

この前の仕事の修羅場、よく頑張ったね。

って、忙しかったわりにお肌すべすべだね。うりやあましーわー  
いやいや冗談じゃないよ。ほら、ちょっと私のほっぺ触ってみて？

(頬をつねられたので、ここはつねられながらの演技をお願いいたします)

ってこらぁ、「つねる」んじゃないくて「触る」の。

はいはい、私の八重歯かわいいね。もう知ってるから、ほっぺの話に戻ってくれる？

(正常状態に戻る)

ほら、ここ、ちょっとカサカサしてるでしょう？

あなたと同じ保湿クリーム、毎日塗ってるのになー

個人差？わからないわそなのー

ああーうらやましいっ！

(SE：お湯が沸く)



おっ、お湯が沸いたみたいねー

(SE：お湯を注ぐ)

{正面、正常距離、正常音量}

じゃ、まずはそっちからー

そして、私のもー

(SE：アラームセット)

あとはラーメタイマーを……セットしてっとー

よし、完璧～

{正面、やや近い、正常音量}

そういえばあなた、ラーメタイマーとかあまり使わないよね？

(呆れる)「感覚でいく」って……高級店の料理人みたいな決め台詞言っても、ラーメンを食べてる事実は変わらないよ？

私が使うのは、ただ麺がふにゃふにゃになるのが嫌だからかなー

(短い沈黙)

(優しく)……ねえ、今のこの状況って、なんだか、懐かしくない？

ほら、深夜二人で、白熱電球の下で一緒にラーメンを食べてさ。

あれは確か、付き合い始めた頃のことだっけ？

寮に戻らずに、夜中にサークルの部室に忍び込んでゲームばかりやってたよねー

お腹すいたらラーメン、警備員の人たちに見つからないように白熱電球一つだけを使って。

いい思い出だよねー

おかげで二人一緒に太っちゃったけど、ふふ。

(主人公：その割にエッチはそこまでしてない気がする)

あはは、確かに。なんだか私達、エッチなことよりそっちの方に夢中だったみたいだね、あの時。

それを含めて、私達だもんね。

(SE：アラーム音)  
あっ、できたできた！  
まずはお湯を捨てなきゃねー

(SE：お湯を捨てる、足音)

はい、ただいまー  
調味料と味付けのりを乗せて、麺と混ぜて……  
ああー胡椒とカニの香りがー

そっちはどう？  
うわー目がキラキラしてる、そんなにいいのか？  
(匂いを嗅ぐ) どれどれ……  
って辛っ！辛いよ！匂いだけでもう辛いわこれ！本当に食べるの？  
(呆れる) はぁー頭おかしいやつ……

ああーはいはい、気に入ったならいいよ。私はこの焼きそばでいいから。  
いや、お勧めしてくれるのは嬉しいんですけど、食べる勇気がないので遠慮させていただきます。

それじゃ、いただきまーす！

う、うまっ！  
(実況っぽく) 麺に合ったこのすべすべな口当たり、調味料にあった油か！  
カニのうま味の上に黒胡椒の辛さが乗って、それに丁度いい塩味。  
そしてそれが油に包まれてより一層濃厚に……シンプルだけどこの絶妙なバランス……  
これ本当に即席麺か……怖いわこんなの……

っは！思わず実況してしまった！そっちは……おっ、なんか奮闘中。  
(解説っぽく) 久々に手強い相手が現れて、挑戦に心血を注いだ彼氏選手は果たして……！

(呆れる) うわーめっちゃ辛い麺食べながらめっちゃ爽やかな笑顔になってる。  
やっぱりただの変態じゃん！

はいはい、せいぜい頑張りなさい、彼氏選手～

(場面転換：食べ終わり)

{正面、やや近い、正常音量}

ごちそうさまでした～

ボリュームが少ないのは玉に瑕だよね、これ。

もう一つくらい食べたいけど、さすがにカロリーの的に無理かなー

そっちも無理しなくていいから……

(驚く) って、まさかの完食！？汁まで！？

ついさっきまであんな苦戦してたのに……あんた普通にすごいよ……

それで？感想は？

「うまい」？ふふ、ならいいんだー

ラーメンはまだまだたくさんあるから、そのうちまた試食会開催しようかー

{正面、正常距離、正常音量}

はあー満足満足～お風呂でも入ろうかねー

大丈夫大丈夫、そこまで食べてないから平気。

それじゃ私、先入るねー

(いたずらっぽく) あっ、なんなら、一緒に入る？

あはは、そうね、さすがに二人じゃ狭すぎるよね、ここの湯船は。

それじゃ、またあとでね～

(SE：風呂場ドア開け、閉め)

## 4、撫でて撫でられて

(SE：エアコンの音)

(主人公風呂上り)

{正面、正常距離、正常音量}

おっ、おかえりーいいお湯だった？

って、髪ちゃんと乾かしなさいよ、風邪とか頭痛の原因になるんだから。

(SE：足音)

{正面、直近距離、正常音量}

なにが大丈夫だよまったくもう。ほら、タオル貸して。

(SE：タオルで拭く音)

エアコンつけたとはいえ、この時期まだまだ寒いから、気をつけなきゃ。

よしっ、あとは、ドライヤーで……

(SE：ドライヤー音)

はい、終わった。ちゃんと髪は拭いてって私いつも言ってるじゃない、悪い癖は早く治した方がいいよ。

{小さい声で}

(からかう) あっ、もしかして、私にこうされたいからわざと拭かずにいた、とか？  
図星みたいね～まあ、こういう素直じゃないところもかわいいけど、ふふ。

{正面、やや近い、正常音量}

お礼？何言ってるの？これくらいは……

ああー、マッサージか～。そう言えばこの前電話で約束したっけ？

(SE：オイルの小瓶を取り出し)

っていうかオイルまで用意してくれたのか。

空港に来る前に買ったの？へえー力入れたね～

今日はもう遅いから、背中だけでいいよー

{正面、正常距離、正常音量}

(SE：布の擦れ音)

じゃ私もバスローブを脱いで、シーツの上に敷いて……そして、うつ伏せにー  
よいしょとー

はい、こっちは準備オッケーだよ。いつでも来い！

……あれ？反応がない？

(呆れる) って、やっぱり私の髪の毛をいじってる。

これくらいあとで好きにしてもいいから、さっさとマッサージしなさいよ！こっちは背中丸出しで寒いのもう！

(SE：オイル蓋開け、手で馴染む)

(SE：マッサージ音、ループ)

ひゃん～

このオイル、最初の時ちょっと冷たいのが、唯一の欠点だよねー

でもこの段々暖かくなる感じに、ラベンダーの匂い。やっぱりいいわー

そういえば、あなたがマッサージできるのを知った時はかなり驚いたよ。

とても「お母さんの趣味」に影響される人には見えなかったからねー

まさかこういうかくし芸を持ってたとは。

まあ癖もあるけどね。髪フェチのところはね。

あっ、今、さりげなく私の横乳触ったでしょ？

こういうところもねえ……

事故？ホント？

(疑う) ふーん……

まあいいやー。

私、あなたの彼女だし、こういう時に触られても別に損はないし。

（冗談っぽく）ただ、他の女の子にマッサージする時は気をつけなさいねー。通報されたら大変だから。

ふふ、そうだねー、エロ漫画じゃないし。

そもそもあんな状況になるはずもないかー

もちろん、あなたに「魅力がない」って意味じゃないよ？

付き合うにあたってはいつも真面目で、遊ぶタイプじゃないって言ってるの。

それも魅力の一つなんだよ？

ほか？

（からかう）あらら、褒められたいの？うーん、そうだね……

例えば、いつも到着時間より1時間も早く空港で私を待っていてくれるところ。

例えば、マッサージするって言ったらすぐにでもオイルを準備してくれるところ。

例えば、今「これくらい当たり前じゃん」って思ってるところ。

どう、これじゃまだ足りない？ふふ。

ああー、照れてる照れてる～。

（優しく）理由を並べなくても、私にとってあなたはもう十分素敵だよ。

よく考えたら、あなた、もし女の子だったらかなりモテてたかもしれないよ？

真面目でクールに見えるけど、付き合ったらべったりで尽くすタイプ？

でも最初は多分近寄り難い雰囲気だから、そこはちょっと難儀かも。

ええーいいじゃんギャップ萌えキャラは人気高いしー

ほら最近流行ってるあの純情派サキュバスちゃんも、もうすぐ単行本化するって。

ん？私？ゲームなら最近やってないよ、出張の時は仕事が忙しいからほとんど時間がないの。ログインはしてるけど、ボーナスを貰ったら即閉じ。

（めんどくさそうに）正直、あのゲームの最近のイベント、シナリオも上位のカードもピンと来ないし、運営もケチすぎて全然やる気が出ない。原作より同人誌を探る方がずっと楽しいわ。

(主人公：じゃあいっそ卒業したら？)

「卒業したらー」って言われてもねえ……そんな簡単な話だったらいいのになー  
ほら、沼から抜け出したら溶かしたお金は全部ゼロに……  
これの思うとなんか負けた気がして悔しい。  
あぁーガチャ怖いわ。昔みたいにゲーム本体だけで遊べればいいのに……

(主人公：え？昔のやつも持ってるの？)

うん、レトロ機種ならいっぱい持ってるよ私。  
スーパーソニコンから……全部？かも？

(主人公：マジかよ……)

えっ？知らなかったの？以前もあなたに話したはずだけど……

(主人公：それキキョウさんから借りたものじゃない？)

あっ、確かに全部キキョウさんちにあるけど、それ私が買ったものだよ？  
私の親は知ってる通り厳しくて窒息しそうなくらいだけど、お金に関しては割と自由だったんだー  
それで、親から貰ったお小遣いでこっそりゲーム機を買ってたの。  
けど自分の部屋に匿ってバレたら流石にやばいから、キキョウさんに預かってもらって、あっちに行く度にやってたよ。

(主人公：ゲームをやりたいだけなのにここまで苦勞するのかよ……お嬢様って大変だよなあ……ってか逆にナデシコの方も凄くない？)

(自慢げ) へへ、凄いでしょ？ゲーマー女子を舐めんなよ？  
いやちょっと待てよ。よく考えたら、ゲーム機をあっちに預けたあと、あいつが最終的にオタクの道に進んだ……ってことはもしや、私が原因なの……？

(主人公：なんの話？)

いや、なんでもないよ、幼馴染の人生を狂わせた話。

(主人公：ああーそりゃご愁傷様ですねー (棒読み) )

「ご愁傷様ですねー」って。あなたの人生も狂わせようか？  
「いい意味でもう狂ってる」？ふふ、確かに～

(主人公にくすぐられて、息切れ切れの状態に)

ってちょ、ちょっと、突然なに？こ、腰が、あは、あはははー、あんた、毎回毎回ここで、  
ははは、ちょっと、ちょっとストップ、ストっあははははは、ストップだってば！  
(主人公の腕を殴る) このっ！このっ！

はあ、はあ、はあー……

(怒っている) あんた、絶対対わざとくすぐってるでしょう！？  
私がここ弱い知ってるくせに、なんという鬼畜外道な……！

「特訓」ってどんな試合なんだよ！？そんなものに参加した覚えはないんだけど！？

(呆れる) 「世界一可愛いパタパタ競技」ってなによ。

(わざと拗ねる) 「可愛い」さえ入れれば問題ないと思ったら大間違いよ！そんなにチョロくないわ私！

……機嫌を直してほしい？

(わざと拗ねる) ふん、それなら……

仕返しよ！ほら、ほらっ！

……微動だにしないあなたを見て、なんかめっちゃムカついた。  
こうなったら……！えいっ！



(SE：抱きつく音)

(主人公：っちょ、ナデシコさん!?)

{左側、直近距離、小さい声で}

へへー、こうやって密着すると、すぐに反応しちゃうよねー

(軽い罵倒) このスケベ！

(わざと色っぽく) 私、上半身はほぼ裸だし、あなたのローブの上からでも、いろいろと分かっちゃうんじゃない？

ねえねえ、今どんな感じ？ちょっと刺激的？

もっと強く抱きしめたら、一体どんな感触がするんでしょうね？

ねえ、もっと強くしてほしい？してほしいの？正直に答えなさい？

ふむふむ、してほしいんだー

じゃ、「俺の負けです、ナデシコ様には勝てません」ってちゃんと言って。

ん？声が小さいよ？もっと大きく。

もっと大きく！

はい、よくできましたー。それじゃ、望み通りに、ぎゅうううー

(SE：抱きしめる音)

{正面、正常距離、正常音量}

はい、おしまい。

いや、続きはないよ～。私をくすぐったバツだから、我慢しなさい～

(SE：マッサージ音、ループ)

(拗ねる) もうーなんであなた、全然びくともしないんだよ、不公平じゃん！私だけそんな弱点があってさー

遺伝？そうなの？まあ、うちの親とはこうやって一緒に遊んだこともないし、わからないわー

(SE：マッサージ音、ループ)

(フェイドアウトなし、直接に次のトラックに)

## 5、ナデシコトワイライト

{正面、正常距離、正常音量}

ん？終わったの？よいっしょとおー

(ベッドから起きる)

(伸び) うっ、んんーはぁー

あなたのマッサージって本当に効くわね、お疲れ様～体が大分軽くなったよー

さてさて、オイルも大方乾いたし、ちょっと肌寒いね。ローブを着てっとー

(SE：布の擦れ音)

(主人公：すっかり深夜になったなー、ナデシコ大丈夫？)

ん？大丈夫だよ、夜更かしは慣れてるし。

本当本当、安心しなよ。

それにほら、私だって、あなたに何かしてあげたいよ。

(からかう) さっきの続きも含めてね～

(店員さんっぽく) それじゃ、ご要望はありますか、彼氏さん？

やっぱり膝枕で耳かきか。

これだけは飽きないよね～いいよ～

(SE：ベッドに座る)

よいっしょと、はい、準備完了、さあさあ～私の太ももへどうぞ～

(SE：膝枕)

{正面、やや近い、小さい声で}

いつものように、最初は耳をもみもみする？オッケー～

(SE：両耳マッサージ、ループ)

(主人公：よく考えたら本当に不思議だよね、カップルとしての俺たちって。)

ん？どうしたの突然？「いい意味で狂ってる」って、あなた言ったじゃない。  
付き合ってから三年以上も経つくせに、もしや今更「彼女がお嬢様だった」って気づいたとか？

(敢えて軽い口調で) まあ、私はお嬢様の中でも落ちこぼれだけどねー  
でも、落ちこぼれだって、正座くらいできるわよ。なにせ、小さい頃から親に叩き込まれたし。  
だから、安心して施術を受けなさいよ、お客様。

ん？小さい頃の私？  
あーそう言えば、あの頃の話はあんまり詳しくしてなかったよね。  
(躊躇してる) ……聞きたいの？

もう過ぎたことだし、別に面白くはないと思うけどさ。  
(決意する) ……そうね、ここはBGMがないから、これがそうだと思って、適当に聞き流してよ。

それじゃ、どこから話そうかなー。やっぱ最初からか？

(以下、ナデシコが過去を語る時は、淡々と、物語を読み上げる口調でお願いいたします)

私が生まれた時は、母は子どもを産むには高齢だったねー  
父は二人目もほしがったけど、リスクが大きすぎたから諦めた。  
一人っ子は蝶よ花よって、甘やかされて育つ印象が強いかもしれないけど、うちの親は違ってたわ。  
物心がついた頃から、強制的に英才教育を受けさせられたのよ。  
まあ、アレが英才教育だっていうんなら、英才になんてならなくていいって思うけど。  
小学生の時から、平日の放課後も家庭教師を雇って補習して……月曜日は算数、木曜日は英語、土曜日はピアノ……  
まともな休みは日曜日ぐらいかな？

私の通った小学校はいわゆる貴族学校みたいなところで、クラスメイトたちもそれぞれどこかのご令嬢とかご令息だったから、別に補習を受けるのはそんなに珍しいことじゃなかったけどね。

ただ、私はその中でもかなり厳しい方だったねー、スケジュール的に。

（自嘲気味）ふふ、おかしいでしょう？十歳にも満たない子供が、スケジュールだなんて。もちろん、子供にしては大変だったよ。

「補習は嫌！」って拗ねたら、親は最初に「大好きなケーキを買ってあげる」って飴をあげて、それが効かない時には鞭でたっぷりお仕置きするのがパターン。

中学生になると、「すべてはあなたの為」とか、「言う通りにしなさい」とか。

流石にぶたれたことはないけど、うちの母の説教はビンタなんかよりずっとこわいから。

（主人公：ナデシコのお説教好きは母譲りかも）

（正常な口調に戻る）

……なによ母譲りって。耳、力いっぱい引っ張るよ？

（めんどくさそうに）はいはい、無駄口叩かないで、そろそろ……

おっ、言わなくてもわかるね、気が利くじゃん。はい、ころーん。

（SE：膝枕、正面から左へ）

{左側、やや近い、小さい声で}

んんー見たところ、そんなに汚れてないね。耳かきする必要ないみたい。

とりあえずマッサージ感覚でやるね。

それじゃめんぼー……あっ。

いや「どうしたの」じゃないでしょう？

ここ、家じゃなくてホテルだよ。ゴムとかありそうなのに、綿棒も耳かきもないよ？

あなたも「あっ」って、どうするんだよもうー

んー、コンビニに買いに行くしかないか……

うん……私も行きたくない……じゃどうする？

指でほじる？ダメでしょそんなの。耳の中の皮膚は元々傷つきやすいし、爪の間にはバイ菌がいっぱいいるんだから、感染したら大変よ？

（閃いて）あっ、それなら、髪の毛ならどうだ？さっき洗ったばかりだし。  
って、こらあ、鼻の下伸ばさないの。

（呆れる）本当にどうしようもない髪フェチだよねあんた。

じゃ、まずは毛先で耳の中ワシャワシャするね。くすぐったいの、我慢するんだよ？  
あっても髪の毛だからちょっとは動いても大丈夫かー

（SE：髪耳かき）

大丈夫？気持ちいい？

（呆れる）うっわー露骨に興奮してる。  
はいはい、髪の毛の感触実況しなくていいからー  
このまま続けるよ、お話もね。

（淡々と）

父と母は、仕事のせいで家に帰らない時が多かったね。  
だから親がいない時は、最初はなんらかの理由をつけて補習を休んでた。  
でも所詮は子供の知恵だから、すぐにバレたね。  
それ以来、父と母は使用人に言いつけて、私がちゃんと補習を受けてるかどうか監視させるようになった。  
元々使用人たちとはあまり親しくないんだけど、そのこともあってさらに距離を置くようになった。

高校生になるまでは、私の生活は、学校から帰って、使用人たちが作った晩ごはんを一人で食べて、補習を受けて、宿題を終わらせたなら一人で寝る、その繰り返し。  
まあ、幸い私の頭は悪くはないみたいだし、成績もそこそこ良かったから、日曜日の自由くらはいは守られた。

厳しい教育に縛られるだけなら、学生時代の間だけなんとか耐えればいい話だよね。

でも残念ながら、それだけじゃない。

ここであなただに問題。仕事が忙しくて忙しくてたまらない親が、突然家に帰ってくる理由  
は？

「娘に会いたかった」、半分正解ってところかな。  
そう、いくら厳しくしているとはいえ、自分たちの一人娘。会いたくないわけがない。  
これまで散々親の悪口を叩いたけど、親の愛情くらい、私はわかってるつもりなんだ。  
(複雑そうに) その愛情がどのような形であってね。

(正常な口調に戻る)  
そろそろ毛先は飽きてきたかなー  
じゃ、趣向を変えて、まず毛先をアップして……ヘアゴムで留めてっとお。  
そして、その曲がった部分をブラシのようにっとおー

(SE：髪耳かき2)

どう？感触が違うでしょう？  
耳の穴を塞ぐこともできるよ〜。これ、なかなか面白いかも……  
(わざとらしい) っは！なんか髪フェチに開発されてく！まさか、私も変態になっちゃう  
の！？  
(呆れる) ……あんた、にやにやしてないでなんか言いなさいよ。誰のせいだと思ってる  
の？

……何の話でしたっけ。あっそうそう、親が帰ってきた理由ね。

(淡々と)  
残りの半分は、私をどっかの社交場に連れて行くためよ。  
ええ、あなたも体験してきたみたいなところ。  
十数年前の私も、あそこにいた小さい子供の一人。

幼い頃は、ああいう場所もかなり好きだったよ。だって、親と一緒にいられるし、補習を受  
ける必要もないし、美味しいもの食べられるし、その場にいるほかの人たちも優しいから。

あるバンケットには私のクラスメイトも居て、その子とはクラスではあまり話してなかったけど、そこではそれなりに仲良くした。  
けどトイレに行く途中で、その子が廊下の曲がり角で誰かと話してたのを聞きちゃったの。別に盗み聞きするつもりじゃなかったけど、会話が耳に入ってきた。  
私への悪口だったよ。  
もちろん、そのあと、バンケットが終わるまで、その子とは話さなかった。声を掛けられても適当な返事をして……。

そうしたら母から「どうしてそんな失礼なことをするの？今すぐ謝りなさい」って。  
悪口のことを言っても、母は変わらず「それでもです。今すぐ謝りなさい」って。

謝ったよ、私。母の説教だけは受けたくないからね。

家に帰ったあと、母は私にこう言った。  
「社交場では、どんな屈辱を受けても、相手をどれほど憎んでも、楽しく話すのがマナーです。相手の要求を断るにしても、できるだけ丁寧に、自分の過失として扱う。よく覚えておきなさい」って。

それから親に連れ出されるたび、より一層嫌いになった。補習よりも嫌い。  
高校生になると、気の早いやつはお見合いまで申し込んできてね。まあほとんど父や母に拒まれてたけど。  
断ったのは、端的に言って、見込める利益が少ないから。

自分の事業が愛しすぎて、自分の娘さえ、愛する投資活動の一つなんだよ、最初から。  
どこまで打算してるかっていうと、さっきうちの親はお金については割と自由だったって言ったよね？  
その理由は、「貧乏くさいのはお嬢様らしくない」って、彼らが考えてるからなんだよ。

(悲しげに) ……嫌よそんなの。嫌いにならないわけがないじゃない。

(長い沈黙)

(正常の口調に戻る)  
はい、左耳終わりー。再び、ころーんって。



(SE：膝枕、左から右へ)

{右側、やや近い、小さい声で}

よーしよし、よくころんできまちたね～いい子いい子～

って、いい子されるたびに顔、私のお腹にくっつけてる。あんた犬か？

(また主人公にくすぐられて)

ちょっ、あんたまた、あはは一ま、待って、あはは一、くつつきすぎ、あは、あはは一、あと手、手！

手を離しあははは、ちょっ、くすぐりは、あ、あはは、ダメって、あははは一、言ったでしょうが！

こうなったら私だって……えい！

(SE：顔が胸に埋める)

(BGSE：心音、右耳)

あっ、一瞬で動かなくなった。男って本当に正直だよなー  
ふふ、チョロい。

どう？頭が胸と太ももに挟まれた感覚は？

(わざと悪役っぽく) でもこれ、呼吸できないよね。

ねえ、知ってる？天国と地獄って、実は類義語なんだよ？

あっ、手がパタパタしてる。

(わざと長く伸びる) どーしようーかなー  
んー、やっぱダメ～

(SE：腕叩き)

おっ、腕叩いてる。流石にもう無理かな？じゃ、解放～

「死ぬかと思った」？じゃ、もうくすぐらないでくれる？  
(呆れる) ……その顔、全然反省してないね。次回は本気でいくわよ。

(SE：髪耳かき2)

(短い沈黙)

(主人公：ナデシコさぁ……やっぱり小さい頃は大変だったな。)

ん？「小さい頃は大変だった」？  
もう最初に言ったでしょう？面白い話じゃないって。  
「ナデシコの学生時代は灰色だった」、これさえ知ってくればいいのよ。

「すごい」？誰が？  
私？そんなことないよ。  
別に好き好んであんな生活を選んだわけじゃないから。強制されただけ。  
私だって、あなたみたいに、普通の家庭に生まれたかったのよ。  
まぁ、一応ここまでペラペラ喋ったし、最後まで聞けよ。

(以下、ナデシコにとっては大切な思い出なので、優しく、懐かしそうな口調でお願いいたします)

そんな生活の中にも、私には救いがあった。

そう、キキョウさんたち。  
私とあの坊ちゃまは、腐れ縁……とまでは言い切れないけど、まぁとりあえず生まれた時から高校生までずっと一緒だった。  
父はもともとお婆様の息子、つまりあいつの父とは仲のいい同僚で、父の企業の初めてのお客さんもお婆様だったみたい。  
だから、最初の別荘は、館の隣に建てたの。  
小さい頃はもちろん、学生になってもあいつとはずっと同じクラスだった。

(ここはナデシコ以外の二人も物真似の演技をお願いいたします)  
入学するたび、あいつが「また同じクラスかよ」ってぼやいて、それに対してキキョウさんが「ナデシコさんがおられると、ご主人様は授業をサボらないから私も苦労しませんし、良いではありませんか」って皮肉めいたことを言う。それで最後に私が「逃さぬぞ」ってあいつにニヤニヤするのが定番だった。

ふふ、口にするとやっぱり懐かしいねー

そう、ああ見えても、あいつ昔はサボりがちで、試験前しか勉強しないタイプだったよ。地頭の良さに頼ってたね。

みんな真面目に授業を受けて、目が回るほど忙しいのに、あいつだけが毎日頭ん中がお花畑でゆったりしてた。

あの頃のキキョウさんは苦勞してたよ。

そんなあいつが今じゃワーカーホリックになったとは……

（感慨深そうに）人は本当、変わるもんだなー

そして、お隣さんだから、いろいろと比べるのも自然でしょ？

放課後、家の車を待って帰るのが私の当たり前だった、補習に急いでるからね。

でもあいつはキキョウさんと一緒に歩いて帰るんだ、「川辺で遊ぶのが楽しいから」って。

私が自分の部屋で算数の公式を暗記してる時、あいつは館の花畑で大はしゃぎしてた。

その後で鬼の形相をしたキキョウさんに館の中に連れ戻されてたけどね。

へへー、ざまあみろ。

（少し暗く）……全く違う世界に居ると思ったよ、お隣なのにね。

（正常の口調に戻る）

はい、それじゃ、また髪を解いて、最初のように毛先だけでやるわねー

この感触、そろそろ慣れてきたんじゃない？

本当にそんなにいいの？なら、次はあなたにやってもらおうかなー

（SE：髪耳かき2）

（短い沈黙）

（優しく、懐かしそうな口調で）

キキョウさんとお婆様は、私のことを心配してくれてたよ。

日曜日は、いつも私を館に招いて、お菓子やお茶をふるまってくれてね。

そしてなんと、漫画読み放題。

これは極秘情報だけど、キキョウさん、熱狂的な少女漫画好きなんだよ。

しかも背徳系の悲恋ものが大好物で、よく私に勧めてきた。  
もちろん、漫画も面白いけど、私はやっぱりゲームが一番かなー。あいつも一緒に三人揃ってやったことも結構ある。  
お婆様が引退してからは、みんなで晩ごはんを食べることも多かったね。  
私はよくメイドさんたちを捕まえて、愚痴を言って……。  
全部些細なことなのに、どうしてだろうね、温かかった。

振り返ると、自分のお家の別荘より、館にいたときの記憶のほうがずっとあざやかで。  
笑いがあって、涙があって、悩みがあって、争いがあって、ゲームがあって、漫画があって、お菓子があって、血の繋がりはないけど、家族みたいな人がいて。  
歯車みたいに動き続けなくてもいい、面子の為に自分を偽らなくてもいい、相手の腹を探らなくてもいい、飾らぬまま、ありのままでいい。  
そんな「普通」の人間になるのが、多分この世界で一番難しくて、一番幸せなことなのかも。

(短い沈黙)

だから私は高校の時から、日曜日のバイト代と親からのお小遣いを貯めて、親を騙して、予定とは違う大学に入学した。  
「普通」の生活を求めるために。

(淡々と)

親？ああ、それはご立腹でしたよ。  
「今すぐ退学なさい、学費は払わないから」って。  
親は、私がお金さえなくなればすぐに戻ると思ってたみたい。私は箱入り娘で、お小遣いなんてすぐに溶かしちゃう「お嬢様」だから、お金を貯めることとか社会のことなんて知ってるわけがないって決めつけてた。  
「実業家のくせに自分の娘を見くびりすぎ」って文句言いたいけど、「見くびる」どころか、ちゃんと「見ている」のかさえわからないね……

私の家出は不意打ちすぎて、親は自力で私を探そうとしたけど、為す術がなかった。  
仕方なく、お婆様のところに行って私の行方を尋ねたら、すごく怒られたみたい。

(正常の口調に戻る)

改めて言うけど、私の父と母は、毒親なんかじゃない。  
ただ、事業が何よりも優先で、そして、愛情の形を間違えただけの、不器用な夫婦。

あれ以来、流石に父と母も反省してくれた。  
「もう好きなように生きてもいい」って。  
ちょっと遅すぎた気もするけど、前よりはマシかな。

お金も送ろうとしたけど、もちろん全部拒まれたよ。  
もちろん、父の企業や遺産を継ぐつもりはない。  
元から家族経営とかバカバカしいと思っててね、親が得たものは親のもので、私のものじゃない。  
それに、企業の運営とか絶対気が合わないし。  
私は、今のままでいいんだよ。

はい、おしまい。  
うん、耳かきも話も全部。

(膝枕から起きる)

{正面、やや近い、正常音量}  
お疲れ様ーそれで、髪耳かきの感想は？  
次はみつあみで試したい？はいはい、それはまた今度。

(ため息) ふー改めて、なんか恥ずかしいな、過去のことをペラペラと……  
ほら、まるで自分だけが被害者みたいな語り口でさ。私より苦しい思いをしてる人は大勢いるのに……  
まともな食事さえ摂れない人たちと比べたら、私の過去なんて天国みたいなんだろうな。  
だから、ずっと前から、敢えて触れないようにしてたの。

でも、だからこそかなー。色々吐き出せたみたいで……  
ずっと、誰かに聞いてほしかったのかもしれない、これが私なんだーって。  
だから、ありがとね、聞いてくれて。

(フェイドアウトなし、直接に次のトラックへ)

## 6、そのぬくもりは眠気につき

{正面、やや近い、正常音量}

(あくび) んはあああ一流石に私も眠くなってきたわよ。  
ごめんね、私につきあって夜ふかしさせて……

(主人公：別にいいよ、明日休みだし)

あはは、それもそうか、これから二週間も休みだからねー  
ずっと休みだったらいいのになー  
それじゃ、もう寝よう。

(SE：布団に入る)

{左側、やや近い、正常音量}

灯りを消してっとおー

(短い沈黙)

{小さい声で}

ねえ、いつものように、うしろから抱きついて？

(SE：布団の音)

{左側、直近距離、小さい声で}

(以下、恋人のあいだのひそひそ話の感じで、甘くてとろけそうな声でお願いいたします)

そうそう、こういう感じー

はあ、落ち着くわー

ん？ローブの中に手を入れたい？いいよ、スケベさん～

ほら、帯はもう緩めたから。

んっ、ん……大丈夫、寒くはないよ。  
手のひらポカポカしてるからむしろ気持ちいいの。  
さすってもいいよ？そうそう、そうやって腰あたりに腕を回して……んっ……

ひゃん、息が髪越しにかかっている、ちょっと、くすぐりたい……

もう、また髪の中に埋めたの？どうしてそんなに髪、好きなのよ。  
ほら、男の子って普通に胸とかお尻とか太もも……もしくは足とかの方が好きな人多いんじゃない？薄い本によって違うけど。

ううん、髪の毛が好きってこと自体は問題ないよ。  
淹みたいに長くて艶やかな髪なら、それは誰でも美しいと思う。  
でも本気で埋めるとかキスまでするマニアックな人は、そうそういないと思うわ……

どのみちあなた、直す気はないんでしょう？  
その代わり、髪の毛の手入れは任せたよー。  
私は楽でいいし、あなたも髪を触れて満足できる。ウィンウィンだねー  
って、言ってるさなかに髪の毛の匂い嗅いでるし……  
本当にもう、救いようがないなー、ふふ。

(短い沈黙)

ん？どうしたの？急に「お疲れ様」って。  
ああ一昔のことか、いや、気にしないでいいよ本当。どうせ過去のこと……  
(驚く) って、わっ。  
(SE：抱きしめる音、頭を撫でる音)  
ちょっと、力入れすぎ……んっ、はぁ……頭も撫でて……

(主人公：いや?)

(恥ずかしそうに) いや、嫌じゃないよ……  
こうやって誰かに直接慰められるのはまだ慣れてないだけ。  
本当に、どうしたの？保護欲でもくすぐられた？

(主人公：ああ。守らなきゃって。)

ふふ、そうね。あなたの彼女なんだから、ちゃんと守ってくれないと。  
でも、それは「今から」って意味だよ。  
過去は過去のままでいい。あの過去がなければ、あなたと出会えなかったかもしれない。  
あなたは、もう十分今の私を愛してるから。過去の私まで愛する必要はないよ。

っていう理屈を言いつつも、やっぱり嬉しい、ふふ。  
だから、私も、よいっしょ……

(SE：布団の音、心音)

{正面、直近距離、囁き}  
正面から、あなたに抱きつくのよ。

(とろけそうな声で) はぁー暖かい、あなたのローブの中でぬくぬくしたくなるくらい……

今日はこのまま寝ましょう？  
明日、ちゃんとあなたの腕をほぐしてあげるから。  
あと、今日できなかったことも、家でちゃんと……ね。

うん～それじゃ、おやすみの前に……

(SE：キスアドリブ、20秒)

ふふ、キスでおやすみ。また明日～

(SE：寝息ループ)  
(フェイドアウト)



## 7、お嬢様とメイドさんのお茶会

(フェイドイン)

【キキョウ】

{やや右、正常距離、正常音量}

……ですから、わざわざホテルに行く必要はありません。

館は空港から近いですし、客室もたくさんありますから、バンケットの時のように彼氏さんと一緒にこちらに一晩泊まればいいだけのことですよ。

次にあの空港に到着する際は、私に電話をかけてください。

メイドさんが車でお迎えに行きますので。

【ナデシコ】

{やや左、正常距離、正常音量}

あはは一、気持ちはありがたいけど、ほら、昔の私っていつもキキョウさんに頼ってばかりだったじゃない？

今は私も彼も立派な社会人で、自立してるから、こんなことくらいで迷惑掛けたくないんだよね。

それに、キキョウさんはもうあいつと同棲してるんでしょう？今回みたいに真夜中に到着する場合は流石に……

【キキョウ】

(驚く) す、少しお待ちください……ど、どうしてナデシコさんがそのことを！？

【ナデシコ】

(驚く) えっ！？隠してたつもりだったの！？

館のメイドさんの間ではとっくにその話広がってるから、てっきりキキョウさんから正式な報告もしたんだと思ってたよ……

私もここに来る途中で教えてもらったのよ？ほら、あのいつも元気いっぱいの子が……

【キキョウ】

(静かに怒る、「また」に強調) ……ああ、またうちのハギちゃんですか。なかなかやりますねえ。

【ナデシコ】

(慌てて) まあまあまあ、そう怒るなって。  
あいつと上手くいってる方が、私も安心だし。一応仲人役だからねー

【キキョウ】

(恥ずかしそうに) そ、それは……はい……お婆様とナデシコさんのおかげで……

【ナデシコ】

おかげだなんて水臭いよ。

二人はあの頃の私にとって数少ない大切な友達だったから。もちろん今もね。

(恥ずかしそうに) だからこれくらいは、幼馴染としてのせめてもの恩返し……になったらいいなー、なんて。

【キキョウ】

ナデシコさんこそ、「恩返し」なんて大袈裟すぎます。

私とご主人様にとっては、ナデシコさんはもうとっくに家族同然ですよ？

【ナデシコ】

(嬉しそうに) ……家族、か……ふふ、そう言ってくれるのは、嬉しいな。

【キキョウ】

ですから、次に出張から帰る時は、遠慮なく私に連絡してください。

【ナデシコ】

(苦笑い) はいはい、わかりました。やっぱりキキョウさんには敵わないね。

でも、今思えば、あいつって本当に小さい頃からいつもキキョウさんにべったりだよねー。  
最初はただ姉離れできてないだけって思ってたけど、段々「いやーこれ多分違うなー」って察したもん。

キキョウさんも、あの頃からあいつ以外の男は眼中になかったみたいだし……

【キキョウ】

(驚く) えっ！？私も……ですか？

【ナデシコ】

……まさかキキョウさん、全く自覚していなかったのか？

【キキョウ】

（申し訳なさそうに）す、すみません……心当たりが全くありませんので……少なくとも、おかしい行動はなかったと思いますが……

【ナデシコ】

（苦笑い）あはは一、本人達だけがわからないんだね……うん、お婆様がああなったのも納得だよ……

ほら、あいつが大学卒業した時、私もお祝いしに来たじゃない？

そこで、まったく進展のないあなたたちを見て、「むしろ何があった」って驚いたよ。とくにそういう関係になってるものだと思ってたからね。

それからしばらくして、お婆様から電話が来た。

あなたたちのその昼ドラみたいな状況をどうにかしたいから、ちょっと手伝いほしいって。

お婆様、切羽詰まった声で「うちの情けない孫を叩き直してくれ」って言ってきてさ。

「お見合い」を口実にしたのは多分、キキョウさんにちょっとプレッシャーを掛けたかったって意味もあると思うけど、まさかあのあとすぐ倒れたとは……

【キキョウ】

（申し訳なさそうに）うう……そこまで心配させてしまって、本当に面目ありません……あの時私が勇気を出していれば……

【ナデシコ】

キキョウさんが気に病む必要はないよ。

あなたもあいつも優しい、いや、優しすぎる人だから、いつも相手のことを最優先にして、自分を二の次にして。

でもね、キキョウさん、恋愛には、ワガママも重要なのよ？

「ワガママ」は、よっぽどの愛情がないと成立しない行為だから。

どんな形でもいいから、相手に甘えてみて？

まあーあいつの場合は、たとえキキョウさんが月がほしいって言い出しても本気で取りに行きそうで凄いいつか愛が重いというか……

（からかう）あら？キキョウさん、顔赤くなってるよ？  
ふふ、どうやら心当たりがあるみたいだね。  
いいじゃんいいじゃん、ようやく結ばれたんだから、甘い方が断然いいよ。

まあ話を戻そう。  
あいつは決して軟弱な男じゃないけど、キキョウさんに関わることだと色々葛藤があったみたいで。  
それだけ、あいつにとって、キキョウさんの存在が大きいってこと。  
大切にしすぎて、失う可能性があまりにも怖いから、動けなくなった。  
だから私はただ、ちゃんと動けるように、あいつの背中を押しただけ。  
それ以外のことは全部、あいつ自分の意思だよ。

#### 【キキョウ】

（感慨深そうに）ご主人様……  
私は小さい頃からご主人様のお傍に仕えていましたけど、実は最初の頃、メイドという立場をあまり分かっていませんでした。  
みんなが家族で、おばあさまとお爺さまはもちろん、ご主人様はかわいい弟だと思っていた。  
今思えば、幼い頃両親を亡くしたご主人様にとって、私は唯一当たり障りなくお喋り出来る相手だったのかもしれない……

#### 【ナデシコ】

あっ、そう言えば昔、キキョウさんが私を敵として見てた時期もあったね。

#### 【キキョウ】

（恥ずかしそうに）も、もう、いやですよナデシコさん、そんな恥ずかしい話。  
（うらやましく）だってナデシコさん、見た目も学識も私よりずっと上ですし、身分的に、ご主人様とお似合いですし、ご両親もその気があったみたいで……

#### 【ナデシコ】

あの頃、親によく聞かれたんだ、あいつのこと。  
もちろん何回も「興味ない」って返したけどさ。

そのあとは段々聞かれなくなったけど、多分あの時からお婆様はもうあなたたちの関係に気づいてたんじゃない？

こっちに「諦めなさい」みたいなことを言って。

まあ、難しい話はここまでにして……今じゃすっかり模範カップルになったわけだし、めでたしめでたしー  
そうそう、ところでキキョウさん。

【キキョウ】

はい。

【ナデシコ】

（わざとからかう）夜の方はどう？

【キキョウ】

（猛烈に恥ずかしい）な、ナデシコさん！

【ナデシコ】

（わざとらしい）あらあらまあまあ、この表情だと、満更でもない様子だなあ奥さん。  
うんうん、相性がいいのはすごくいいことだよー

【キキョウ】

（恥ずかしそうに）も、もう、こんな年上をからかわないでください……  
館には若いメイドさんが沢山いますから、彼女たちと比べたらこんなお婆さんじゃきっと余計に不満が……  
私だって毎日悩んでいますよ……

【ナデシコ】

その点については確かな確認方法があるよ？

【キキョウ】

えっ？

【ナデシコ】

あいつの「お楽しみ用」の漫画コレクションを探せばいいだけの話。  
ほぼ全部姉系やメイドものだと思うけど……

【キキョウ】

(慌てて) そそそそんなのいけません！ご主人様が秘密にしているものを……

【ナデシコ】

でも知りたいでしょう？

それに、その薄い本の中に、「役に立つ」一手や二手くらいきつとあるはずよ？  
(わざとらしい) サプライズとして使ってみたら、骨抜きになるかもしれないよ？

【キキョウ】

(恥ずかしそうに) ほ、骨抜きって……  
だ、男性向けの音声作品から少しだけ学びましたけど……  
まだ試したことはありませんので……ほ、本当、でしょうか？

【ナデシコ】

ええ、本当よ。何度も実験したんだから、彼氏の喘ぎ声に誓って保証する。  
っていうかいつの間にキキョウさんも音声沼にハマったの？少女漫画以外はヲタ趣味と無縁  
だと思ってたよ。

【キキョウ】

ご主人様は耳かきがお好きなので……

【ナデシコ】

ああーなるほど、いいことだと思うよ～  
ウェルカム・トゥ・ザ・ワールド！  
こちらの世界には面白いものがいっぱいあるからさー

(SE：ドアベル)

あれ？お客さんかな？

【キキョウ】

いいえ、今日はゲストの予定はないはずですが……

あっ、ハギちゃんの家庭教師ですね。

【ナデシコ】

ええー、まだ中学生じゃない。今からもう家庭教師？

【キキョウ】

はあ……あの子、頭は良いんですけど、全然勉強していないので、今回の試験も赤点だらけで……

将来ずっとここでメイドを務めるには問題ないのですが、流石にこのままではいけませんから……

【ナデシコ】

あははー、今になってもキキョウさんは相変わらず苦労人だね。

【キキョウ】

……あの子の境遇は私と似たようなものだから、ちゃんと見てあげなきゃ。

【ナデシコ】

……きっといいお母さんになれるよ、キキョウさんは。

【キキョウ】

本当でしょうか……

でも、まずはいいお嫁さんにならないとね。ふふ。

【ナデシコ】

(Effect：心の声)

キキョウさんの女子力にしてこの意気込み……

私の花嫁修業、一生掛かってもし終わらない気がするよ……トホホ……

## エキストラ、眠れないあなたに癒しを～ナデシコ編～

{全部囁き声}

{左側、直近距離}

ん？どうしたの？眠れない？

じゃ、耳かきでもする？今回はちゃんと耳かきを用意してるから。

ふふ、それじゃ、始めようか～

(SE：呼吸音ループ、耳かき)

梵天でふわふわするね。

(SE：呼吸音ループ、梵天)

うーん……そろそろ切り上げようかなー

(呆れる) って、なんでまだ起きてるのよ……

ええー反対もやるの？

{左側から右側へ、直近距離}

もう、しょうがない人だから、さっさと寝なさいよねー

それじゃ、ご希望どおり、こっちもやるぞー

(SE：呼吸音ループ、耳かき)

仕上げは梵天っと……

(SE：呼吸音ループ、梵天)

よーし、おしまーい。

おっ、すやすや寝てる。無防備の顔もかわいいねーふふ。

それじゃ、おやすみ。



(頬にキス) ちゅっ。